

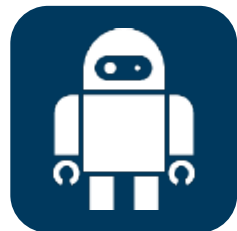
# デジタル時代の国際戦略 - Society 5.0 for SDGs -

2019年 2月 12日

一般社団法人 日本経済団体連合会

# 背景

- いま世界には、大きな社会変革につながる「技術的变化」、経済の重心がシフトする「経済・地政学的変化」、地球環境等の問題を踏まえた「マインドセットの変化」など、急激な変化の波が迫っている。



## 技術的变化

AIやIoTなどのデジタル技術やバイオテクノロジーの革新



## 経済・地政学的変化

世界経済の中心がアジア（中国、インド、ASEAN）に急シフト  
少子高齢化や人口爆発など人口動態の激変



## マインドセットの変化

地球環境など世界規模の問題深刻化によるSDGs等への取り組み重視

変化には**リスク**だけでなく**チャンス**が伴う。

変化を活かす**想像力**で未来を切り拓いていくことが重要。

- 特に大きな変化は**デジタル革新（デジタル・トランスフォーメーション）**である。個人の生活や行政、産業構造、雇用などを含めて社会のあり方が根本から変わる。
- デジタル技術はあくまでツールであり、それを起点にしてはいけない。どうい社会を創りたいからデジタル革新を利用するのかという観点が重要。

## IoT

あらゆるモノがインターネットに接続され、センサーなどからリアルタイムにデータが収集できるようになる。デジタル革新の対象があらゆるモノ・ヒト・コトに広がる。

## AI(人工知能)

AIは適切に設計して運用されれば、非常に複雑な問題も解決できる。人間が行ってきた業務の多くは、AIによって自動化することが可能となる。AIの本質は「能力の流通とコモディティー化」である。

## ロボット

AIの能力は、ロボットによってフィジカル空間で発揮される。さまざまなモノが知能を有するようになり、社会のスマート化が進んでいく。

## 分散台帳技術

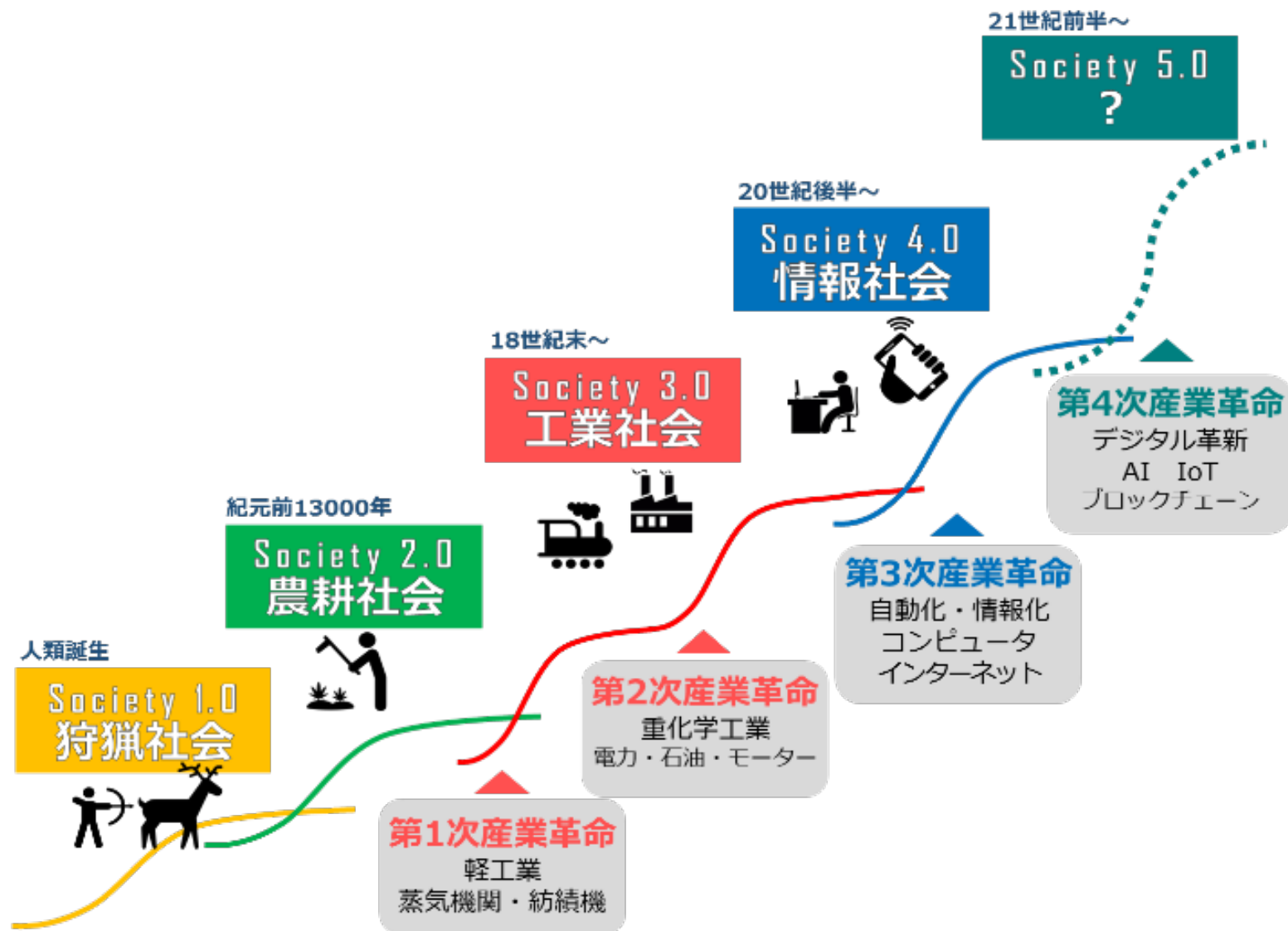
ブロックチェーンなど分散台帳技術は、効率的な取引や追跡可能性の向上に大きな影響を与える。信用や信頼の新たな形をもたらさしうる。

# 目指すべき社会

## Society 5.0

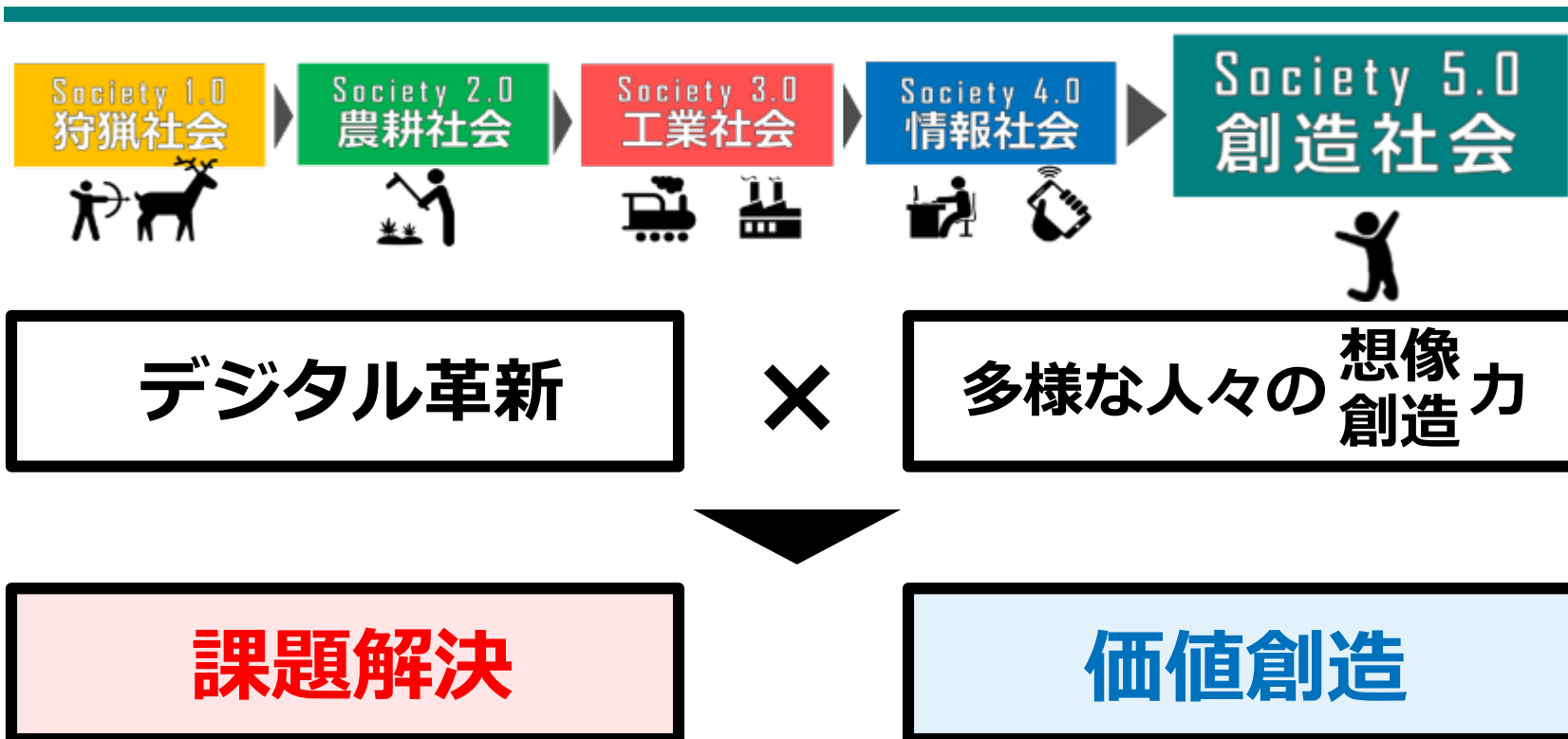
# 情報社会の次の段階 Society 5.0へ

- 今、デジタル革新（デジタル・トランスフォーメーション）をきっかけに第5段階の新たな社会（Society 5.0）への変革のときを迎えている。



- 経団連は、Society 5.0を「創造社会」（デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会）と再定義。デジタル革新を使って社会をどう変えるかという「想像力」やそれを実現していく「創造力」がキーとなる。

## Society 5.0



- Society 5.0では、さまざまな制約から解放され、誰もが、いつでもどこでも、安心して、自然と共生しながら、価値を生み出す社会を目指していく。

～ Society 4.0

Society 5.0 ～

規模拡大  
効率性

効率重視からの解放

課題解決・価値創造  
“価値を生み出す社会”

均一性

個性の抑圧からの解放

多様性  
“誰もが多様な才能を発揮できる社会”

集中

格差からの解放

分散  
“いつでもどこでも機会が得られる社会”

脆弱

不安からの解放

強靱  
“安心して暮らし挑戦できる社会”

環境負荷大  
資源多消費

資源・環境制約からの解放

持続可能性・自然共生  
“人と自然が共生できる社会”



# Society 5.0 for SDGs

- 社会課題の解決や人・機械・自然の共生を目指すSociety 5.0は、国連が採択したSDGsの達成にも貢献可能。変革の方向は軌を一にしている。



# わが国がとるべき国際戦略

- Society 5.0やSDGsは、一つの国や企業で成し遂げられるものではない。世界中のあらゆる主体とのパートナーシップによって実現を目指し、その過程で得られた課題解決のノウハウを世界に広め、世界の持続可能な発展に貢献することが重要。

## Society 5.0 for SDGsの主導

- 「Society 5.0 for SDGs」の世界的な普及に向けた、プラットフォーム化と国際標準化のリード
- 自社の強みを社会課題の解決に結びつける事業を構想し、多様な主体と目標共有
- 次世代産業の創成（医療・介護システム、農業・食システム、統合インフラ等）



- 日本は、Society 5.0を世界に先駆けて実現するために、AI-Ready化によってデジタル革新を先導し、あらゆる多様性を内包することで、成功のプラットフォームを目指すべき。

**デジタル革新**

AI×データの力を  
人々が最大限に活用できるよう  
変革への体制を整える  
**(AI-Ready化)**

×

**多様性の内包**

日本のあらゆるところで  
多様な背景をもった人々が  
社会を変える挑戦を次々に行う  
**(あらゆる多様性の内包)**

**成功のプラットフォームとしての日本**

多様な人々が日本でさまざまな挑戦を行い、成功のきっかけをつかむことで  
日本から新たな価値が次々と創造され、それを通じてSociety 5.0を実現していく

- 国として、既存産業の保護ではなく、スタートアップ振興に大きく軸足を移し、Society 5.0時代の主役としてグローバルに活躍できる企業を次々と生む産業構造に変革すべき。

## 米国は市場を牽引する企業や産業が大きく入れ替わっている

### 平成元年の時価総額トップ5

#### ■ 米国

1	IBM
2	エクソン
3	GE
4	AT&T
5	フィリップ・モリス

### 2018年の時価総額トップ5

※2018年7月末時点

1	Apple
2	Amazon
3	Google (Alphabet)
4	Microsoft
5	Facebook

#### ■ 日本

1	NTT
2	日本興業銀行
3	住友銀行
4	富士銀行
5	第一勧業銀行

1	トヨタ自動車
2	NTTドコモ
3	NTT
4	ソフトバンクグループ
5	三菱UFJフィナンシャルグループ

- Society 5.0時代に必要となる人材像は大きく変わる。デジタル技術やデータの活用を基礎的に身につけた上で、創造力を発揮できる人材を育成すべき。

## Society 5.0時代に求められる人材

- **AI-Readyな人材**（AIを活用して自ら課題を解決できる人材や、果敢に挑戦し社会の仕組みを一から創り直せるような人材）
- **多様なチームでリーダーシップ**を発揮できる人材

## 教育や人材育成への期待

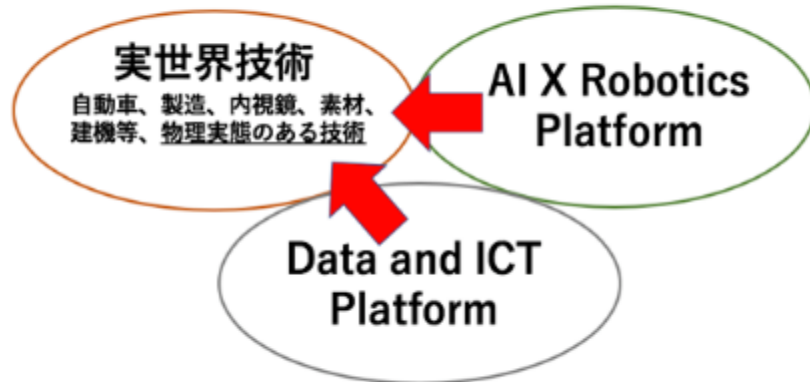
- **異質な考えや能力**を褒めて伸ばし、**失敗を恐れずに挑戦**することを奨励
- 必要となるリテラシー（知識を活用し自分で考える力、科学的・論理的に思考する力、感性・好奇心、倫理観、情報科学・数学・統計・生命科学の基礎的な知識等）を身につける
- **文理分断からの脱却**（文系・理系の垣根をなくすとともに、ダブルメジャー推進）
- **平等主義からの脱却**（突出した人材を育成する）
- 多様性を持った集団の中でリーダーシップを発揮できる人材の育成
- **リカレント教育**拡充



- 今後、デジタルをめぐる主戦場はフィジカル空間へと移る。日本企業は、フィジカル空間での技術的優位性を武器にして、サイバー空間への展開をいち早く行わなければならない。
- 日本としては、各領域の知識とリアルなデータを活用したAI化を重点的に進める戦略が必要。

## 展開戦略の定石

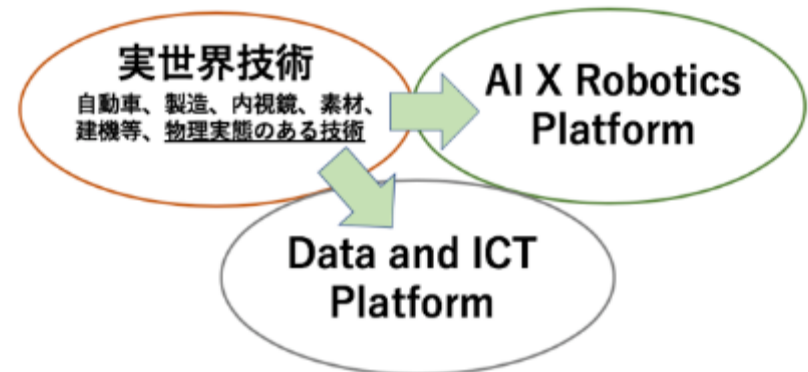
### 負け戦のパターン



このシナリオでは、実世界技術は、AI / Cloud Platformの端末化の道をたどる

## 展開戦略の定石

### 勝ち戦のパターン



このシナリオでは、強力な実世界技術を根拠に、  
一気呵成にAI / Cloud Platformでも勝ちきる

- データ覇権をめぐる各国の争いが激化する中、日本は多種多様なデータの共有を図るべき
- データやAIの普及を進めるため関連ポリシーを確立し、適切に取り扱う

米国



巨大プラットフォーム企業  
が大量のデータ収集

中国



国家関与の巨額投資により  
大規模人口のデータ収集

EU



GDPRによる個人データの  
囲い込み



日本



多くの業界や企業に分散された**多種多様なデータ**を組織の枠を越えて**連携・共有**

**プライバシーとサイバーセキュリティの確保**による安心・安全・高品質な取り扱い



# (参考)

Society 5.0のコンセプトとアクションプランの詳細については、2018年11月公表の提言「Society 5.0 -ともに創造する未来-」をご参照ください。



<http://www.keidanren.or.jp/policy/2018/095.html>



## 第1章

### Society 5.0の目指すもの

1. 人類社会の進展
2. デジタル革新
3. Society 5.0とは
4. Society 5.0のもたらすもの
5. 具体的な社会像 -Society 5.0 for SDGs-
6. まとめ

## 第2章

### 日本を解き放つ アクションプラン

1. 日本の目指すべき方向性
2. アクションプラン
  - (1) 企業が変わる
  - (2) 人が変わる
  - (3) 行政・国土が変わる
  - (4) データと技術で変わる